



# 自脱コンバインを汎用利用した飼料イネ収穫法

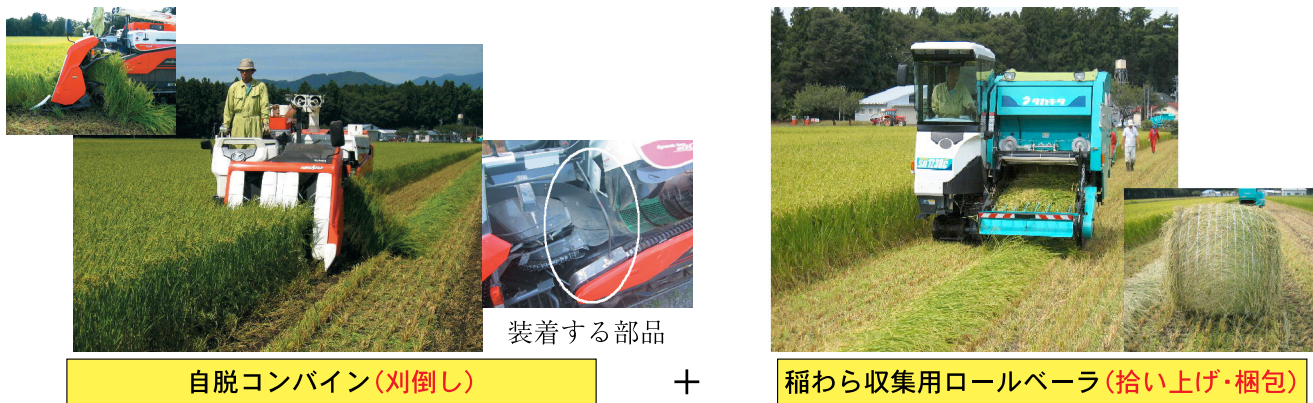
総合研究部 農業機械研究室 電話019-643-3535

## 研究のねらい

稲作農家が所有する自脱コンバインと、稲わら収集用に普及している自走ロールベアラを用いて、新たな機械投資のいらぬ飼料イネの収穫体系を開発する。

## 成果の内容

- ①自脱コンバインは、刈取り部とこぎ胴の間の刈り程を搬送する一部の部品を取り外し、こぎ胴のフィードチェーンに簡単な部品を装着することで、イネの刈倒し作業に利用できる(図1)。
- ②イネを自脱コンバインで刈倒し、一定水分まで圃場で乾燥させた後、稲わら収集用のロールベアラで拾い上げ・梱包することで、飼料イネの予乾収穫体系が構築できる(図1)。
- ③4条刈自脱コンバインを用いたイネの刈倒し作業能率は40a/h程度であり(表1)、稲わら収集用ロールベアラによる拾い上げロス率は3%以下である(図2)。



自脱コンバイン(刈倒し)  
・簡単な部品交換で刈倒しに汎用利用

稲わら収集用ロールベアラ(拾い上げ・梱包)  
・稲わら収集用機械の汎用利用

図1 自脱コンバインと稲わら収集用ロールベアラを用いた飼料イネの収穫体系

表1 自脱コンバインによるイネの刈倒し作業能率

刈倒し面積 a (縦×横m)	平均 作業速度 m/s	作業時間 ( )内%			作業能率 a/h
		刈倒し m' s''	旋回 m' s''	合計 m' s''	
33.9 (300×11.3)	1.2	45' 19" (89.7)	5' 11" (10.3)	50' 30" (100)	40.3

注) 供試圃場の品種: 奥羽飼387号、乾物収量: 856kg/10a

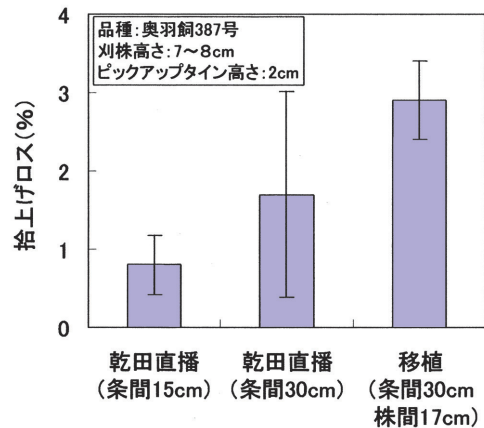


図2 ロールベアラの拾い上げロス

## 成果の利活用

- ①車輪型トラクタを用いる牧草用作業機を利用した予乾収穫体系に比べ、軟弱な圃場に適応できる。
- ②既存の機械を汎用利用するため、新たな機械投資を必要としない。